

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

総合学科高校の特色を活かし、各系列の選択科目での学習を通して、生徒の興味や関心に応じた幅広い知識や技能を習得させるとともに、全教職員が学校の教育方針に基づいて、キャリア教育・生徒指導・人権教育を密接に連携させてきめ細かい指導・支援を行い、一人ひとりの進路実現をめざす。

- 1 将来に夢と希望を持ちながら自己の具体的なキャリアビジョンを設定し、実現に向け粘り強く継続する力を育成する。
- 2 多様な社会の流れや課題の本質を理解し、高い自尊感情を持ちながら変化の時代を生き抜く力を育成する。
- 3 地域との繋がり人との繋がりを大切に、互いに助け合い高めあう関係を築くことのできる力を育成する。
- 4 「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」実施校として、外国にルーツを持つ生徒への適切な支援を行い、日本人生徒との共生を図る。

2 中期的目標

1 総合学科の特色を活かした確かな学力の定着

- (1) 生徒の実態等に基づき、基礎学力を定着させるとともに、興味関心・進路希望に応じた教育内容を創造する。
 - ア 新学習指導要領の導入に合わせ、系列等の選択科目について大幅な刷新を図り、総合学科として更なるカリキュラムの充実を図る。
 - イ 必修科目について、学び直しと少人数展開授業の実施等により、文章読解の力をはじめ基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。
- (2) 主体的・対話的で深い学びを実現した授業づくりを進め、生徒の学習意欲を向上させる。
 - ア 授業力向上プロジェクトを立ち上げ、他校の授業見学や教員センターの研修等に積極的に参加し、ICTを活用した授業改善についても取り組む。
 - イ 相互授業見学期間を設け、互いに切磋琢磨して授業力の向上を図り、教員全員が「主体的対話的で深い学び」について共有を図り、実践する。

*総合学科アンケートの項目すべてにおいて、平成30年度の肯定的回答が5%上昇することをめざす。

2 将来に向けた力をつけるキャリア教育の推進

- (1) 「ドリカム」をコアカリキュラムと位置づけ、全ての授業との関連を持たせつつ、自分で考え自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
 - ア 3年間を見据えたグループ学習等を通じて主体的に学ぶ意欲を養い、多様な出会いや体験を通じて自分の将来像を描く中で、自尊感情や社会的有用感に富んだ人間性を育成する。
 - イ 3年生課題研究において、自分が選んだテーマを研究し、論文にまとめ、プレゼンテーションすることを通じて、視野を広げ伝える力を育みながら、自らの個性・生き方を磨き、自らの進路を切り開く力を育成する。
 - ウ 土曜講習や民間の教材等も積極的に導入し、生徒の基礎学力と学習意欲の向上をめざして多様な進路を保証すると共に、2021年度には進路決定率90%を達成する。また、各種検定等を積極的に推進し、生涯を通じて継続的に学び続ける力を身につける。

3 安全で安心な学びの場づくりの推進

- (1) 生徒一人ひとりをサポートする人権教育と生徒指導等の一層の充実を図る。
 - ア 生徒指導上の課題のある生徒、不登校の兆候の見られる生徒や個別の支援が必要な生徒については、中学校、保護者や外部の専門機関等と連携しながら早期に状況の改善に努める。
 - イ 学校行事や交流活動などの生徒が生き生きと活動できる場を3年間見通した活動の中で提供する。また、部活動については引き続き重点項目とし、生徒の自尊感情や集団の中での有用感を高め、興味関心のあることに生涯を通じて継続的に取り組む力を育成する。
 - ウ 日本語指導の必要な生徒について、母語指導の充実や進路への取組みを進めるとともに、学校全体で多文化共生の取組みを発展させる。
- (2) 教職員が学校経営計画のもと志を一つにし、互いに協力し合う中でチームとして機能する職場づくりを推進する。
 - ア 担任だけでなく副担任も含め、情報共有を密にしなが、全ての教職員が適切かつ丁寧な指導できるよう、チームワークを活かし学年団として対応する。
 - イ 様々な校内研修やディスカッションを通して経験の少ない教員のOJTを図り、併せてミドルリーダーの育成を図る。
 - ウ 教職員一人ひとりの意識改革を図り、勤務時間管理や健康管理を徹底し、「働き方改革」に取り組む。

4 地域連携、保幼小中高連携の推進

- (1) 絆づくりと活力あるコミュニティの形成により地域とのつながりを充実させる。
 - ア これまで培ってきた幼保小中との連携、地域連携のネットワークを基盤に、地元へ根づいた「開かれた学校」づくりを一層推進する。
 - イ 学校運営協議会及び学校教育自己診断を活用するなど、保護者や地域のニーズを反映した学校改善に取り組むとともに、「豊川教育コミュニティネット」の一員として、他校の教職員とのネットワークを強化し、総合学科高校として情報を積極的に発信する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒の回答では、同時期に3年対象に行った総合学科アンケートでは、総合学科でよかったとの答えが90%を超え、ドリカムにかかる数値もすべてUPするなど、本校への満足度が上昇しているのに対して、自己診断では「学校が楽しい」が77.72%へ低下など満足度が一部低下している。総合学科の取組みを当初は難しく感じる生徒が増えているが、その分、乗り越えたときの満足度は大きいと見る。</p> <p>保護者の回答は、こどもの理解、特色、進路等々で80%を超え肯定的ではあるが、生徒指導・日本語指導の満足度が低下している。生徒指導(72%:-11%)では同じ事象について厳しい・緩いと両意見を伺う。日本語指導(88%:-7%)については、当事者以外の数値が下がっている様子があり、当事者生徒を十分支援できていない負の影響を他の生徒が被っているとの指摘だと見る。また、授業が楽しくわかりやすいにかかる満足度の低さ(48%)は、授業への厳しい指摘で真摯に受け止める。ただ施設・設備等の学習環境への満足度が低く、さらに今回大きく低下したことも相関した数値である(70%:-11%)。校舎の大規模改修工事(1・2学期)で騒音等があったことを差し引いても、地元小中のICT等の充実度(茨木市:教室電子黒板100%)に対して、本校が立ち遅れている現状が浮かんでいるとも見える。授業力と施設・設備の充実を図り、生徒の学習力を向上させたい。</p>	<p>第一回(6/12開催) 学校の財産は地元で活躍している卒業生だ。先輩の頑張りを発信することが重要。「福井高校に行ったら、これを」という目的を持たせることが必要。特別枠生徒の「母語と日本語」が中途半端になることが心配。放課後の子ども教室のボランティアに参加している生徒がいる、福井小学校での「ふれあい祭り」等、引き続き地域との連携を。</p> <p>第二回(11/15開催) 「防災」のような実習を行う授業は準備等大変であるが、生徒が生き生きしていた。昨年と比較し、教室がスッキリした印象。机間巡視もしやすかった。茨木市内の小中学校ではICT化が進んでおり、生徒はそれに慣れている。施設をもっと充実する必要がある。開講科目数はかなり多いと感じる。精選しつつより良いカリキュラムで、生徒が安心して楽しく過ごせる学校を作りたい。</p> <p>第三回(2/26開催) 「日本語指導」「多文化共生」にかかる課題が大きい、小中学校との交流など良い面もよく見えた1年だった。課題を克服しつつ、良い面を伸ばして欲しい。総合学科について、その長所を生かした生徒と生かせなかった生徒に分かれたところが見える。ドリカムフェスタではすごく頑張って発表していた。あの緊張感は糧になっていると思う。ドリカムを学校の柱としてさらに発展させて欲しい。ICT活用・朝読・キャリアパスポートなど地元茨木の中学が先行している取組みを引継ぎ、また地元地域でのボランティア活動なども充実させて欲しい。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の定着	<p>(1)興味関心・進路希望に応じた教育内容の創造</p> <p>ア、選択科目の内容の充実</p> <p>イ、少人数展開授業・文章読解・学び直しの内容の向上</p> <p>(2)主体的対話的な授業による学習意欲の向上</p> <p>ア、授業改善の取組み</p> <p>イ、授業力向上のための研修の実施</p>	<p>(1)</p> <p>ア、現在の系列選択科目を精選し、生徒の興味関心・進路に応じた多様な選択科目を設定し不本意選択をなくす。</p> <p>イ、英数は習熟度別授業を実施するとともに、国をはじめ全教科で読解力の育成と学び直しの要素を取り入れた授業を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア、経験の少ない教員数名を中心に、授業力向上プロジェクトを立ち上げ、授業力向上をめざす。</p> <p>イ、教員相互の授業見学や研究授業を実施するとともに、目標設定で「主体的・対話的」な授業の工夫を記載して実践を検証する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、自己診断アンケートの「総合学科での学び」に対する肯定的回答を80%に向上させる(昨年度73%)。</p> <p>イ、自己診断アンケートの「授業満足度」と「授業の工夫」の項目に対する肯定的回答が75%以上となることをめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア、プロジェクトメンバーによる相互授業見学、他校の授業見学等を含め数回のミーティングにより主体的対話的で深い学びの実践を行う。</p> <p>イ、相互授業見学月間を積極的にを行い、授業力向上研修を年度中に1回実施し、生徒が「わかる」「満足する」授業についての共有を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、肯定的回答77%。但し総合学科卒業生アンケートでは83% 93%へ上昇した()。</p> <p>イ、授業関係項目の評価は60%、前年度から7%低下した。第2回目のアンケートの実施時期の違い(前年度は2年生が修学旅行直後で全項目が例年になく高かった)を差し引いても不十分()。</p> <p>(2)</p> <p>ア、相互授業見学期間中に特に5人の教員の授業について集中的に相互見学し、GW等の振返りを行い「学力向上」について研修するなどした()。</p> <p>イ、11月に相互授業見学期間を設け、相互の授業見学を推進した。授業構成・授業展開に優れた授業の見学を推奨するなどして「わかる」「満足する」授業についての共有を図った()。</p> <p>* の乖離より、授業力UPの取組みと同時に学習力UPへの違う切り口での取組みが必要。</p>
キャリア教育の推進	<p>(1)「ドリカム」を全ての学びの中心に</p> <p>ア、グループ学習の実施</p> <p>イ、課題研究の充実</p> <p>ウ、各種検定の奨励</p>	<p>(1)</p> <p>ア、1・2年次においてプロジェクト学習や多様な社会人と出会う取組を実施する。</p> <p>イ、3回目を迎える総合学科発表会(ドリカムフェスタ)を更に充実させ、プレゼン等の向上を図るためプロジェクターを3年の教室全てに配置する。</p> <p>ウ、英検・ワープロ検・数検・漢検等の受験者数を増やし、目標を設定して努力する姿勢を育成する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、自己診断アンケート(キャリア教育関係)の肯定的回答を昨年度同様80%をめざす。</p> <p>イ、総合学科卒業生アンケートの「ドリカム」関係の肯定的意見を5%あげる。</p> <p>ウ、各種検定試験の受験者10%増をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、「将来の進路や生き方について考える機会」は77%で3%だが未達()。</p> <p>イ、「ドリカム」に関する項目は57% 70%と13%向上()。</p> <p>ウ、受験者は減少(延べ挑戦者69名)。生徒の興味関心や進路希望が拡散する傾向があり、従前からの資格に意欲を示す生徒が減少している。挑戦する資格等についても見直しが必要()。</p> <p>* 2つのアンケートの類似の質問間で自・総の傾向がある。プロセスは苦しかったが、達成感は大と分析する。</p>
安全で安心な学びの場づくりの推進	<p>(1)人権教育と生徒指導等の充実</p> <p>ア、生徒に寄り添った指導の促進</p> <p>イ、学校行事や部活動の充実</p> <p>ウ、多文化共生の取組み</p> <p>(2)志を一つにする教職員集団</p> <p>ア、全ての教職員のチームワーク向上</p> <p>イ、委員会・プロジェクトによるミドルリーダーの育成</p> <p>ウ、「働き方改革」への取組み</p>	<p>(1)</p> <p>ア、職員研修や専門機関等の指導を受けるケース会議を行う。丁寧な情報共有ときめ細かい指導により、生徒が「学校生活を楽しい」と感じる雰囲気醸成を図る。</p> <p>イ、特別活動をはじめ、集団作りの観点から3年間を見通した取組を進める。部活動においては学校全体で支援体制を充実させ、加入率をあげ、かつ継続させる。</p> <p>ウ、日本語指導・母語指導・進路指導の充実と多文化共生の取組みを学校全体で進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア、学年団を定着させるため、学年主任を中心にチームとして生徒に対応する。</p> <p>イ、少人数での業務で経験年数の少ない教員へのOJTを進める。</p> <p>また、Yプロ(経験年数の少ない教員研修)を核に教員による学び合いの取組を実施する。</p> <p>ウ、一斉退庁日の趣旨を徹底し、長時間に及ぶ時間外勤務を行っている教職員の減少をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、研修・ケース会議を年間5回以上実施する。学校教育自己診断アンケートの学校生活関係の肯定的回答を5%増やす。</p> <p>イ、部活動の加入率50%を達成し、定着させる。(昨年度45%)体育祭・文化祭行について自己診断アンケート肯定的回答を70%以上とする。</p> <p>ウ、生徒の学校への定着や全員の進路決定をめざすとともに、日本ルーツの生徒との昼休みのランチ交流を10回程度行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア、ストレスチェックの「職場の支援(上司・同僚からの支援)」の項目を業種平均以上に改善する。</p> <p>イ、経験の少ない教員が、委員会やプロジェクトを進める。Yプロ経験者が、講師として後輩を育てる取り組みを2回程度実施する。</p> <p>ウ、全教職員が昨年度残業時間を10%削減する(昨年度7%減)。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、外部講師を招いての人権研修・事例検討会を各3回計6回実施したほか、各対象に応じて、時に外部機関の参加も依頼してのケース会議を多数回開催し、教員の意識向上と外部連携を含む丁寧な情報共有に務めた()。</p> <p>イ、部員総会や部主導の挨拶運動を行い、バスケット部は府内ベスト16に入るなど、部活動は成果をあげているが、加入率は40%に低下。生徒のニーズにあった部活動を工夫する必要がある。行事の肯定回答は67%であった()。</p> <p>ウ、地元小中学校との交流授業等を4回行うなどしたが、校内のランチ交流等は5回未達()。</p> <p>(2)</p> <p>ア、超過勤務は減も同は7ポイント悪化()。</p> <p>イ、Yプロについて、まとめの会等を持ち、3年目の教員からのOJTや茨木市内の若手交流会への参加などで成果を上げた。グループディスカッションの場も設けて、学校運営についての意見も述べあった()。</p> <p>ウ、総残業時間は15%減、目標達成。府内全日制平均よりも僅かだが少なくなった。但し偏りがまだ大きいので、更なる改善をめざす()。</p>
地域連携・保幼小中高連携の推進	<p>(1)絆づくりと活力あるコミュニティの形成</p> <p>ア、地域に根ざした学校づくりの推進</p> <p>イ、地域、中学校に向けた情報発信</p>	<p>(1)</p> <p>ア、生徒会、部活動などが地域のイベントに積極的に参加し、交流を深めることや、地元小中学校での出前授業を行う。</p> <p>また、茨木市人権研究会、豊川教育ネット主催の公開授業や研修に参加し、「福井高校を育てる会」と連携を強める。</p> <p>イ、学校の取組みをHP・説明会など地域・中学校に発信するとともに、「福井高カップ」をはじめ生徒主体の取組を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア、部活動を中心に地域のイベントに10回以上参加するとともに、出前授業を5校以上実施する。</p> <p>イ、HPを外部委託しリニューアルする。ブログ更新回数を今年度以上にあげる。オープンスクール参加者の10%増を達成する。</p>	<p>ア、小学校・地域の夏祭りや福祉施設での交流等を15回以上行い(小との部活交流も初めて実施)、出前授業では「多文化」や「スポーツ」の授業生徒も積極的に参加し5回以上実施した。茨木市長とのタウンミーティングなど茨木市主催の行事や大学生との事業にも積極的に参加した()。</p> <p>イ、HPをリニューアルし、更新も昨年以上に()。しかし、初回を9月に変えたオープンスクールでは内容は好評だったが、競合もあり人数は20%以上減少。12月の学校説明からは数も10%増加に転じたが全体の参加者数は昨年を下回る()。</p>